

第3回 久万高原町都市計画マスタープラン等策定委員会 議事録

令和3年10月22日(金)に第3回久万高原町都市計画マスタープラン等策定委員会を開催しました。



■ 会議の流れ

- 1：開会
- 2：議事
 1. 誘導施設・誘導施策の検討について
 2. 防災指針の検討について
 3. 地域別構想(久万地域)について
- 3：閉会

※委員（15名中11名出席）



■ 委員等からの主な意見

【質疑応答など】

1. 誘導施設・誘導施策の検討について

○誘導施策には、具体的な施設名や施策が記載されているが、何に基づいて提示されているのか。

→誘導施策については、関係課ヒアリングおよび「第2次久万高原町総合計画」や各種関連計画をもとに作成した事務局案について、事前に関係課に確認したうえで提示している。一方で、「久万街道におけるにぎわい創出」施策については、これまでの委員会での意見等も踏まえたうえで、事務局案として提示している。

なお、計画書では、誘導施設・誘導施策の検討経緯等についても記載を行うこととする。

○「施設管理分野における官民連携の推進」とは一体どのようなものか。また、官民協働プラットフォーム「ゆりラボ」は今後どのような活動を行う予定か。

→官民連携の推進としては、PPP/PFIや指定管理者制度の活用を想定している。また、「ゆりラボ」については、本年5月に久万商店街に活動拠点が整備され、「コミュニティナース」や「起業創業サポート」等の事業が本格的に開始されたばかりであることから、当面はその活動を継続したうえで、今後、拡充施策について関係課と連携して検討していければと思っている。

○本計画に位置付けられた施策は、今後、どのように活かされていく予定か。

→「第2次久万高原町総合計画後期基本計画(令和3年5月)」では、令和3年度から令和7年度までの施策の方針が謳われている。本計画では、総合計画等に記載される施策も参照しつつ、「既存」・「新規」・「拡充」として施策を位置付けているため、今後は、本計画に基づいた具体的な施策に取り組んでいきたい。

○「居心地が良く歩きたくなるまちづくり」というのはどのようなものを想定しているか。

→本町の中心部である久万商店街の道路空間を再編し、歩行空間の確保、商店街の活性化等を想定している。その手法としては、行政が一方向的に再整備を行うのではなく、まずは社会実験を実施し、

町民の要望を踏まえたうえで取り組んでいく。

- 誘導施設について、アンケートでは図書館の利便性向上を望む声が散見されるが、図書館は誘導施設に位置付けているのか。
→「⑥教育文化機能」の中に図書館を含んでおり、誘導施設に位置づけている。
- 誘導施設の整備について、補助対象になる場合とならない場合の違いをご説明いただきたい。
→（都市構造再編集中支援事業）補助金交付要綱によると、誘導施設を都市機能誘導区域外から都市機能誘導区域内へ移転する場合や、都市機能誘導区域内に位置する建物については他施設との合築する場合等が補助対象となる。
- 町立病院の建替えを契機とする各機能の集約について、社会福祉協議会等の福祉団体が利用する施設も集約の対象として検討してはどうか。
→具体的な集約対象および機能については、事務局では把握しておらず、町立病院や関係部局との協議のうえで決定されるものと思う。
- 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を推進するにあたっては、松山市ロープウェイ通りのような道路空間の再配分が不可欠ではないか。今後、Iターン・Uターンを推進するのであれば、土地区画整理事業の実施など、100年先を見据えたまちづくりも必要ではないか。
→土地区画整理事業については、多大な時間や労力および地権者の協力が必要となるため、将来性を見据えて、都市計画マスタープランに位置付けることとしたい。

2. 防災指針の検討について

- 液化化危険度について、PL値が高い地域では耐震改修の実施が被害の規模にも影響すると考えられるが、町としてはどの程度把握しているか。
→液化化危険度は、県が実施した地震被害想定調査結果を基に分析を行ったものであり、実際に建物を建築する場合等は、詳細な調査を実施する必要がある。なお、建物の耐震化については、防災指針で位置付けている。
- 久万川の浸水想定について、市街地への浸水到達時間が早いのが、浸水想定区域は誘導区域から除外されているか。
→浸水想定区域は居住誘導区域から除外している。

3. 地域別構想(久万地域)について

A班・B班の2班に分かれ、久万地域の方針案に対する意見交換や地域づくりの目標の検討を行った。各班の主な意見及び委員長による総括は以下のとおり。

A班

【地域づくりの目標】『自然と共生した暮らしやすいまちづくり』

- 歩いて暮らせるまちづくりを実現するための環境整備として、商店街の無電柱化や社会実験に取り組むとともに、大宝寺の参道を中心に段階的に整備を行う
- 町立病院の建替えを契機に、健康増進の取組を強化するなど、健康まちづくりの推進を図る
- ホテルの里の親水空間の整備や有枝川の養魚場、直瀬地区の棚田の活用、雪山観光ツアーなど、中心部周辺の地域資源を活かした取組を推進する
- 各種製品の木質化や木製品の加工のほか、森林と農地の境界部分の里山化を行うなど、豊かな森林資源を活用する

B 班

【地域づくりの目標】『笑顔でふつうに暮らせるまち』

- 久万商店街の道路を中心にまちなみを整備し、歩きたくなるまちなかづくりを推進する
- E-bike のレンタル、自動運転の検討等、駅からさんさんや町立病院といった新たな交通ネットワークの充実を図ることで、人の流れの活発化促す
- 歩く環境づくりとして、川辺、林道、遍路道の整備を推進する

総括

- 久万地域は“ふつう”の暮らしができる環境と自然環境とまちなかのバランスの取れた地域である
- 歩いて楽しめるまちなかづくりとして、歩行空間の整備等を官民連携で進めていく必要がある
- 周辺地域の自然の豊かさを活かした取組を積極的に行い、久万高原町の魅力を向上する